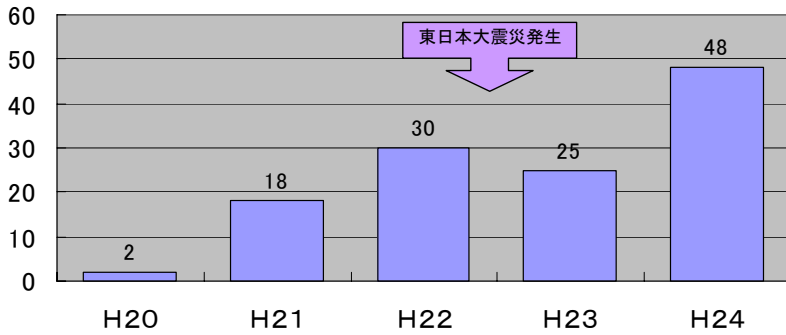




情報化施工活用実績の推移



▼ H24年度 活用工事件数 (県別)

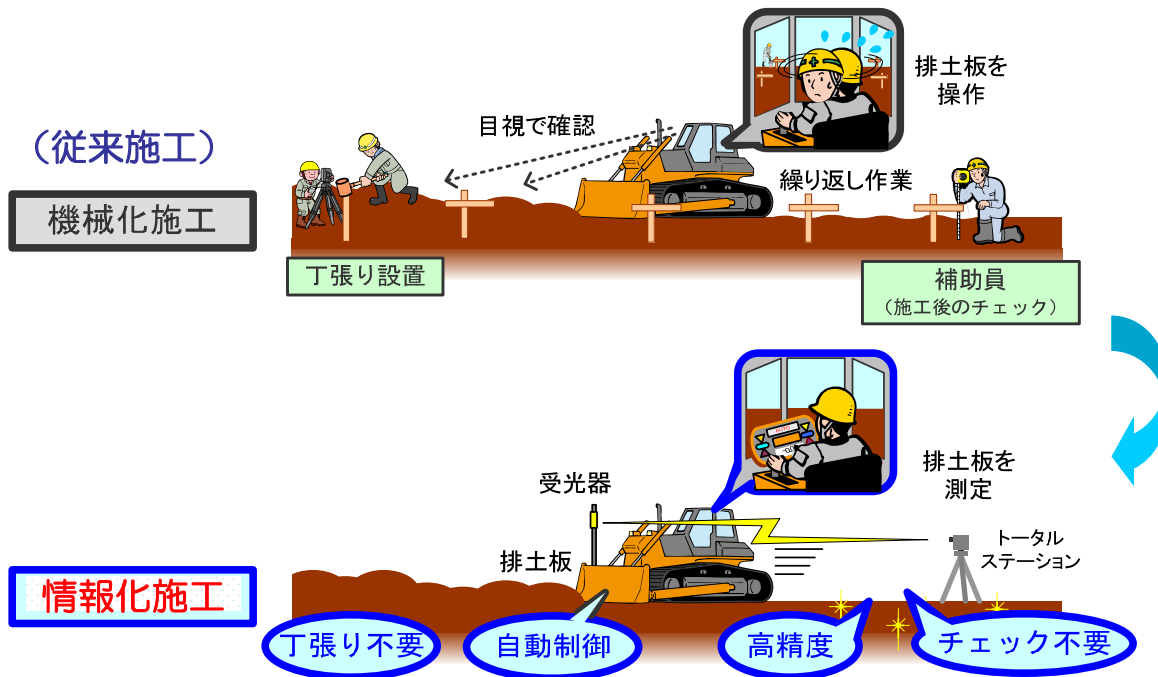
県名	工事数
青森県	9
岩手県	10
宮城県	0
秋田県	13
山形県	11
福島県	5
計	48

▲H24. 6月末時点

情報化施工のイメージ (機械化施工と情報化施工)

情報化施工技術は、ICTを工事に活用し、高い生産性と施工品質を実現する技術である。

※ICT: 情報通信技術(Information and Communication Technology)



- 実用化の優先順位が高い「**トータルステーションによる出来形管理技術**」及び「**マシンコントロール(モータグレーダ)技術**」については、平成25年度一般化に向けて普及を図る。

1. 一般化・実用化に向けた情報化施工技術

- 工事目的物の品質確保、施工の省力化によるコスト縮減等の効果の期待が高く、すでに技術的に確立した二つの情報化施工技術については、平成25年度一般化に向けて推進を図る。

実用化に向けて検討している技術については、実用化への対応、検討を進める。

【平成25年度に一般化する技術】

(施工管理において活用される技術)

・**TSによる出来形管理技術**

(施工において活用される技術)

・**MC(モータグレーダ)技術**

【実用化に向けて検討を進める技術】

(施工管理において活用される技術)

・**TS/GNSSによる締固め管理技術**

(施工において活用される技術)

・**MC/MG(ブルドーザ)技術**

・**MG(バックホウ)技術**

H24年度(今年度)の目標活用率

1) 「平成25年度に一般化する技術」について

・下記の要件を満たす工事を平成24年度の対象工事とし、目標活用率を50%以上に設定して、情報化施工技術の活用を加速する。

★**TS出来形管理(土工)**: 1,000m³以上かつ、L=200m以上の河川土工、道路土工を含む工事。

★**モータグレーダMC(下層路盤工)**: 5,000m²以上の下層路盤工を含む舗装工事。

※バラバラではなく、纏まった工事量により、要件を満足する工事のみを対象。

※概略数量発注工事は、対象としない。

※軟弱地盤上で、沈下板を設置している工事は、対象としない。

※被災地5事務所(仙台、北上川下流、三陸、南三陸、磐城)については、事務所自らが情報化施工を実施可能とする工事のみを対象工事とする。

(震災の復旧・復興に全力を注ぐ)

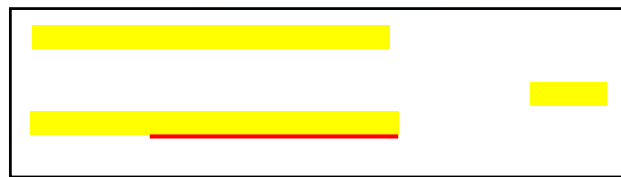
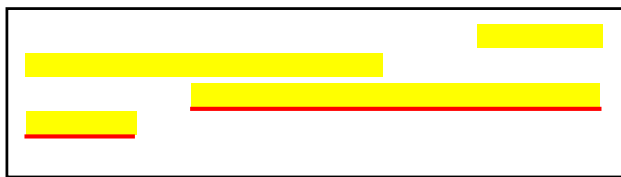
2) 「早期実用化に向けて検討を進める技術」について

目標活用率を設けずに試験施工を実施して、活用促進を図る。

TSを用いた出来形管理技術

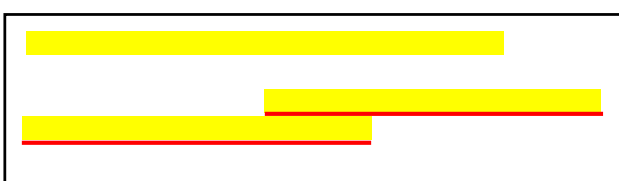
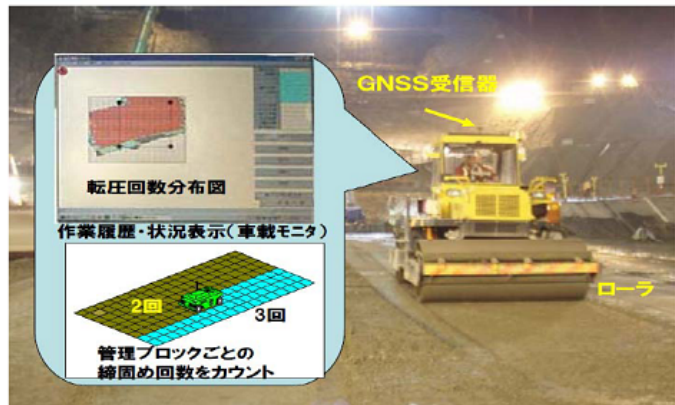


マシンコントロール技術



※TS : 1台の機械で角度(鉛直角・水平角)と距離を同時に測定する電子式測距角儀

TS・GNSSによる締固め管理技術



※TS : 1台の機械で角度(鉛直角・水平角)と距離を同時に測定する電子式測距角儀
 GNSS : 人工衛星からの信号を用いて位置を決定する衛星測位システム ≒GPS